

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：地球っ子クラブ2000

1. 事業の概要

事業名称	“仲間・活動・母語母文化・社会参加”の良い循環を作る日本語教育「多文化ハッピープログラム」
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	多文化の子供たちに関わる日本語指導員や教員に対する研修がなく、専門性が考慮されていないことが多かった。また、地域のボランティアについても、その活動内容や意識にばらつきが大きい状況があった。さらに、コロナ禍での休校やオンライン授業への変更、またボランティア団体の休みにより、相談できる場所がなく情報からとり残されている子供や保護者がいた。これは、「今日本にいる外国ルーツの子供たちは、これからの社会を共に生きる大切な存在」であるという認識が浸透していないためだと考えている。このため、人的にも予算的にも必要な措置が取られていない。日本語教育は、外国出身の子供や大人への日本語支援とともに、社会の体制整備、および多文化・多様性は私たちの暮らしを豊かにするという意識改革を進めるものでなければならない。
事業の目的	日本にいるすべての外国出身者は、幸せになるために日本に来たはずである。そして、幸せになるためには①人との豊かな関わり、②体験と活動、③自尊感情、④社会参加の4つが必要であり、日本語教育はそのためにある。さらに、それらの成果を生かして、外国出身者と協働して社会に積極的に発信し、日本社会の意識改革・多文化共生の街づくりなど、外国出身の人たちが暮らしやすい環境づくりも、日本語教育の忘れてはならない役割である。 私たちのこの考えは、外国出身者とともに学びあう中で気づいたことであるが、「生活者としての外国人のための日本語教育」ガイドブックのコラムに書かれている理念とも一致するものであると考える。ただ、生活者としての外国人にとって、非常に重要である子育てと教育がカリキュラム案には入っていない。保護者が子育ての主役として主体的に関わっていくために、日本社会や学校の情報を十分に受け取りながら社会参加していくサポートが必要である。私たちは、さいたま市の日本語指導員として子供たちの声なき声を聞く立場にあったことから、目の前の子どもたちの幸せのためには、子供と保護者を一体とした1)教室活動を継続してきた。その中で気づきをコラムの理念と照らし合わせながら振り返り、子育て・教育の分野の日本語教育を進めてきた。上記の①②③④の良い循環を生み出す日本語教育という考え方はその成果である。 今年度は、Aプログラム「多文化ハッピープログラム」の集大成として、1)教室活動と、2)日本語教育の要である関わる人たちを対象とした人材育成事業に力を入れたい。特に、2)人材育成事業では、昨年度作成の教材(改訂版)を活用し、態度を含めたスキルの向上を実践を通して学びあい、「私たちも変わろう!」という大きなメッセージも届け、さらに、関わる人たちのつながり作りも進めていきたい。3)教材作成においては、人材育成事業の結果や現場からの声をさらに反映させる。
本事業の対象とする空白地域の状況 (空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	上記の目標を達成するため1)教室活動と、2)人材育成事業、3)教材作成に取り組んだ。その流れの中には多文化共生の街づくりがあった。2)の人材育成では、昨年度作成した教材(改訂版)を活用した。なお、この教材は、20年にわたって続けてきた教室活動の実践から生まれたものであった。 1)教室活動 ・地球っ子クラブ2000…親子で参加。活動を軸にした日本語教室。言いたい気持ちを引き出し、楽しくエンパワメント。 ・多文化子育ての会coconico…参加者のニーズに合わせ積極的に親子で街に出るなど子育て中の生活がアクティブになる活動 ・あそび舎でんきりん…多文化・多世代が集い学びあう場。教室活動ははじめ多言語おはなし会やチャレンジスクール等、自分の得意なこと地域に発信する力をつけていく。地域の人や日本語関係者の参加を積極的に促す。 上記の3つの教室を運営したが、共通して大切にしているのは ①人とのつながり＝仲間がいること ②体験と活動の場づくり ③自尊感情＝母語・母文化を取り入れた活動 ④社会参加＝エンパワメントと発信である。 また、社会参加と活躍の場を作るために、多くの団体と積極的に連携していった。 2)人材育成事業 講演会(福島賢二氏、橋本一郎氏)2回＋勉強会5回＋学校等訪問研修3回＋教師力パワーアップ講座1回 昨年度作成の教材(改訂版)は、子どもたちに関わる学校関係をはじめとするすべての人に広く共有してほしいという思いで作成したものである。この教材を活用し、「多文化の子どもたちは、これからの社会を支える大切な存在」だから、この子たちが自分らしく成長するために私たちはどうあったらいいかというを基本を確認しあい、クラスや、ボランティアの場で実際に使える活動をワークショップで体験しながらスキルを高める講座にした。また、これを通して支援者同士の恒常的なつながりを作ることで、多様性豊かな教育環境づくりに支援者がどう寄与していけるか考えていくことも重要視した。 3)教材作成 昨年度改定した教材の理念をいかしたワーク等を加筆、修正。
事業の実施期間	令和3年5月～令和4年3月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	川又 秀雄 坪井 政彦	さいたま市教育委員会 学校教育部 指導一課 主任指導主事・主査
2	中島 マリ子	公益社団法人さいたま観光国際協会 国際交流センター 国際交流センター所長
3	桑原 武蔵 安西 智美	埼玉県 県民生活部 国際課 主幹
4	福田 智子	公益財団法人 埼玉県国際交流協会 主査
5	阿左見 直昭	埼玉県教育局 市町村支援部 生涯学習推進課 社会教育主事
6	増子 千穂 村田 菜穂子	さいたま市経済局商工観光部 観光国際課 国際化推進係 係長・主査
7	吉原 誠士	さいたま市立 与野南中学校 校長
8	福島 賢二	埼玉大学 教育学部 准教授
9	井上 くみ子	多文化子育ての会Coconico 代表
10	芳賀 洋子	地球っ子クラブ2000 あそび舎てんきりん 代表



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年6月2日(水) 15:00～17:00	2時間	オンライン	高柳、芳賀、井上 (五十洲)、 桑原、福島、中島、 増子(村田)、阿左見、 福田、川又(坪井)	1. 自己紹介 2. 団体説明 3. 文化庁との関係 4. 今年度事業「地域日本語教育実践プログラム(A)」取組内容の概要 5. 質疑応答・意見交換
2	令和3年10月12日 (火) 15:00～17:00	2時間	オンライン	高柳、芳賀、井上、 安西、福島、中島、 増子(村田)、阿左見、 福田、坪井	1. 新委員(安西氏)紹介 2. 今年度事業の取組経過報告、質疑応答 3. 意見交換
3	令和4年3月10日 (木) 15:00～17:00	2時間	オンライン	高柳、芳賀、井上、 安西、福島、中島、 増子(村田)、阿左見、 福田、川又	1. 今年度事業の取組結果報告、質疑応答 2. 意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<人材育成事業> 運営委員会、教育委員会、さいたま市教育研究所、埼玉県国際課、訪問研修先の学校等 <教材の活用> さいたま市教育委員会、さいたま市教育研究所、埼玉県教育局、埼玉県国際交流協会 <外国人の活躍・エンパワーメント> 埼玉県国際交流協会、市内図書館、NPO法人さいたまユースサポート、さいたま市チャレンジスクール、さいたま市子育て支援センターあいばれっと <その他・多文化共生の街作り> 埼玉県多文化共生推進委員会、埼玉県社会教育委員会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県げんきプラザ <日本語教育に関わる人たちの学習> 昨年度の人材育成講座に参加した全国の日本語教育関係者 <連携による効果> 日本語教育事業を様々な分野に拡散させ理解を広げることができ、現場教員・日本語指導員のニーズを把握しつつ、子供たちの教育環境の整備に向かって連携を始めた。外国出身者を地域の教室につなげ、多言語おはなし会・料理講習会など、外国出身者の活躍の場を提供、多文化共生の街作りに貢献した。連携先が年々増えていることで、外国ルーツの子どもに対する理解が広まりつつある。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	地球っ子グループの3つの団体(地球っ子クラブ2000、多文化子育ての会Coconico、あそび舎てんきりん)とその代表者(中核メンバー)が中心となり、すべての事業に取り組んだ。中核メンバーは、共に活動する会員、参加する外国出身の隣人達の良さを引き出し、それぞれが持っている力を十分発揮し、取組がより豊かになるように努めた。また、これまでの文化庁委嘱事業で築いてきた他機関との連携を重視し、本事業が円滑に進むよう、かつ、新たなつながりと広がりを生み出すよう、発信にも力を入れた。運営委員会は、親子の日本語教育の現状と課題を共有し、取組が効果的に進むよう協力し検証も担う場となった。
	1)教室活動 3つの団体が、それぞれの特色を生かした取組を担当した。
	2)人材育成 2020年度作成の教材「今日からいっしょに」(改訂版)を活用し、掲載したアイデアを体験してもらうワークショップを取り入れた勉強会を開いた。これは、中核メンバーが講師、コーディネーターを務め、講座の周知には各運営委員会の機関が協力した。また、人材育成の一環として、学校等訪問研修のほか、就学時健診サポートも行った。そのほか、やさしい日本語講座や日本語教室のボランティア講座の依頼を受けて、多文化共生の街作りに力を入れた。さいたま市の多文化の子供たちに対する日本語教育事業の課題(研修がない、人材に専門性がない、ニーズを把握していない、相談体制がないなど)解決のために、コーディネーターの設置を含む体制整備に向けて、運営委員会をはじめとする各機関と協働し、積極的にリードしているところである。 3)教材作成 教材作成委員会を設置し、今まで作成した教材をさらに有意義なものにするため助言を受け、ワーク等の加筆を行った。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:多文化・多様性を活かし地域社会に発信する力をつける日本語教育の実施】										
取組の目標		対話と活動とエンパワメントの良い循環を作り、子供も大人も多様性を活かして自分らしく日本社会で活躍できるようになることを目標とする。また、外国出身者の活躍の場づくりについては他団体と連携し、また、彼らの活躍と発信を通して、外国出身者がこれからの日本を共に生きる仲間であるという多文化共生の意識を日本社会に広める。また、コロナ禍で取り組んだオンラインの教室活動の成果を活かし、活動の場に来ることができない人のニーズにも応えていく。								
内 容		外国出身者が生活者として、その人らしく活躍する力をつける日本語教室を目指した。そのために、母語・母文化の尊重、ライフステージにあった内容、地域社会とつながりエンパワメントの機会を作ること、それを支える日本人側の多文化共生の意識を広げること、を、教室活動の中に企画・実現する。「活動が言葉育てる！活躍が自己肯定感を生み、多様性豊かな社会をつくる！」という循環は、対話から始まると考え、「対話」をすべての教室活動の基本とした。 学習対象者のニーズに応えるため、4つのタイプの教室活動を展開した。 タイプ①活動型親子参加日本語教室(地球っ子クラブ2000担当) 外国につながる親子が日本の教育の中で力が伸ばせるよう、日本語力とグループで活動する力をつける教室。 タイプ②多文化子育て広場(多文化子育ての会Coconico担当) 子育て中の親子が楽しい雰囲気の中で、子育ての情報交換や相談などができる居場所・仲間作りをする教室をZOOMにて行った。 タイプ③地域と繋がる学びあいの場(てんきりん担当) 学習者の力を引き出しエンパワメントし、タイプ④に繋げた。 タイプ④活躍・発信(全体) 多言語おはなし会、ワークショップ等の実践 すべての教室活動に ●外国出身者と指導者はお互いに学びあう対等の関係 ●外国出身者の母語・母文化を大切にすること ●地域のボランティア体験などを通し、日本社会と繋がり行動範囲を広げる活動型教室 ●図書館、チャレンジスクールなどと連携し、外国出身者からの発信の機会を作る。それにより外国出身者(子供も)が自分のルーツを大切にできる気持ちになる ●すべての取り組みを通し、外国出身者と協働して地域の多文化共生意識の向上に努める。を共通の理念とした。								
実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日				授業時間・コマ数	1回 2時間×29回＝58時間 1回 2.5時間× 1回＝2.5時間 1回 6時間× 1回＝6時間 (※32回～35回は計上外)				
対象者	1)日本語を母語としない親子、外国出身者、外国ルーツの子供の教育を支える関係者 2)国際結婚、子育て中の外国出身者とその家族 3)外国出身者・地域の日本人 4)多言語母語話者 5)外国出身の子供と大人				参加者	総数 185人(発信事業の観客を含む) (受講者171人、指導者・支援者等14人)				
カリキュラム案活用	教材例集の「災害」のカリキュラム案をもとに、このコロナの未曾有の事態における子供の教育や生活上の課題などに対し、解決能力をつける活動をした。その際ハンドブックのコラムにある理念に基づいた教室活動を企画した。コラム3の1回完結、コラム5の体験・行動中心の学習、さらに、コラム7のエンパワメントを実現する教室活動を実践した。また、カリキュラム案にあるPDCAサイクルは、教室活動を行っていく上で最も大切な態度と考えて日々の活動に生かした。企画→教室活動の実施→振り返り(点検)を通して、より学習者にあった活動(改善)を目指した。なお、振り返りに関しては、仲間が必要だと考えているので、毎回の教室活動ごとに実施した。									
使用した教材・リソース	『みんな地球っ子～話そう！遊ぼう！語り合おう！～親子の日本語活動集』(当団体作成)、 『話題集 多文化ハッピープログラム』(当団体作成)、 生活者としての外国人のためのカリキュラム案									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	19	3	3	7	1	0	1	0	4	38+69(観客)
バングラデシュ(16人)、ミャンマー(1人)、インド(7人)、トルコ・クルド(5人)、イタリア(1人)、パラグアイ(1人)、アルゼンチン(1人)、ロシア(1人)、カンボジア(1人)、コロンビア(1人)、スリランカ(1人)、モンゴル(4人)										

日本語教育の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年6月2日(木) 10:00~12:00	2	ZOOM	8	タイプ③ エンパワーメント	さいたまユースサポートのマルシェ(イベント)に協力参加の打ち合わせと多言語活動練習	芳賀洋子	2名
2	令和3年6月6日(日) 10:00~12:00	2	さいたまユースサポート ネット	22	タイプ②④ 地域で活躍	さいたまユースサポートのマルシェ(イベント)に協力参加。多言語活動を発信	芳賀洋子	2名
3	令和3年6月12日(土) 14:00~16:00	2	ZOOM	21	タイプ① 知らないことを 知るって楽しい	自己紹介をして、もう知っている人にも質問したいことを互いに知り合う	高柳なな枝	3名
4	令和3年6月26日(土) 14:00~16:00	2	ZOOM	14	タイプ① カエルは何cm ジャンプする?	長さの感覚、単位mm,cm,m 折り紙でカエルを折り、そのカエルが何cm ジャンプするか測り、測ることに親しむ	高柳なな枝	2名
5	令和3年7月8日(木) 10:00~12:00	2	ZOOM	11	タイプ③ 多様な人との 対話を通して	おなじって嬉しい!ちがうって楽しい! テーマ「学校での体験と教育」	芳賀洋子	1名
6	令和3年7月10日(土) 14:00~16:00	2	ZOOM	16	タイプ① 雨・晴れ・くもり	「好き」「嫌い」「なんで?」 天気の不思議、雨雲の移動など	高柳なな枝	3名
7	令和3年7月15日(木) 10:00~12:00	2	ZOOM	8	タイプ③ エンパワーメント	さいたまユースサポートの人も参加し 対話と多言語活動	芳賀洋子	1名
8	令和3年7月19日(月) 10:00~12:00	2	ZOOM	7	タイプ③ 8月16日高校生との 交流会の準備	高校生との交流会へむけて、内容について のアイデア出し、話し合いと練習	井上くみ子	1名
9	令和3年7月24日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	17	タイプ① 夏休みの宿題1	夏休みの宿題の確認・把握 夏休みの宿題を進める	高柳なな枝	2名
10	令和3年7月25日(日) 10:00~12:00	2	さいたまユースサポート ネット	17	タイプ②④ 地域で活躍	さいたまユースサポートのマルシェ(イベント)に協力参加。多言語活動を発信	芳賀洋子	2名
11	令和3年7月29日(木) 10:00~12:00	2	ZOOM	11	タイプ③ 多様な人との 対話を通して	おなじって嬉しい!ちがうって楽しい!	芳賀洋子	1名
12	令和3年8月2日(月) 10:00~12:00	2	ZOOM	7	タイプ② 8月23日多言語 おはなし会の準備	多言語おはなし会(オンライン)開催にむけての、相談、話し合いと練習	井上くみ子	1名
13	令和3年8月7日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	20	タイプ① 夏休みの宿題2	夏休みの宿題を進める 自由研究について	高柳なな枝	3名
14	令和3年8月19日(木) 10:00~12:00	2	ZOOM	15	タイプ③ 多様な人との対話を 通して	おなじって嬉しい!ちがうって楽しい! テーマ「キッチンカーで何を売りたい?」	芳賀洋子	2名
15	令和3年8月23日(月) 13:00~15:00	2	ZOOM	19	タイプ④ 発信	南浦和図書館 多言語おはなし会(オンライン)	井上くみ子	1名
16	令和3年9月11日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	22	タイプ① 小麦粉粘土	小麦粉粘土をつくり、造形教室 オノマトペ	高柳なな枝	3名
17	令和3年9月25日(土) 14:00~16:00	2	ZOOM	14	タイプ① おはなしの登場人物 と	「おおきなかぶ」の登場人物と お話の流れを確認。 多言語での紹介も行う	高柳なな枝	3名
18	令和3年10月4日(月) 10:00~12:00	2	ZOOM	6	タイプ② インタビューに答える	大学生からのインタビューに答える (外国出身者の子育てに関して)	井上くみ子	1名
19	令和3年10月9日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	17	タイプ① 私の好きなこと・ できること	自分の絵を描き、好きなことやできることを 書き加えていく	高柳なな枝	3名
20	令和3年10月14日 (木) 10:00~12:00	2	ZOOM	12	タイプ②③ エンパワーメント	12月の多言語交流会に向けて多言語活動 (絵本、文字遊び等)練習	芳賀洋子	2名
21	令和3年11月11日 (木) 10:00~12:00	2	ZOOM	10	タイプ② 多様な人との対話	子育て・教育について	芳賀洋子	1名
22	令和3年11月13日 (土) 10:00~12:00	2	ZOOM	19	タイプ① ツル取りボランティア の準備~くずってど んな植物?~	ツル取りボランティアのための準備 葛の生態、 ボランティア当日のお知らせ	高柳なな枝	3名
23	令和3年11月15日 (月) 10:00~12:00	2	ZOOM	7	タイプ② 12月4日の準備	多言語おはなし会(対面)開催にむけての、 相談、話し合いと練習	井上くみ子	1名
24	令和3年11月27日 (土) 13:00~15:30	2.5	見沼田んぼ	46	タイプ①②③④ ツル取りボランティア	見沼田んぼの葛のツル取りボランティア 取ったツルでリースづくり	高柳なな枝	4名
25	令和3年12月4日(土) 13:00~19:00	6	てんきりん	14	タイプ③④ 地域で活躍	ウンミさんのキムチ作り	芳賀洋子	1名
26	令和3年12月6日(月) 10:00~12:00	2	ZOOM	10	タイプ③ 講師勉強会	世界へのトビラ事業等の講師勉強会 PPTの準備や、内容、相談、練習	井上くみ子	1名

27	令和3年12月11日 (土) 14:00~16:00	2	ZOOM	18	タイプ① 折り紙リースを 作りながら	ツル取りボランティアに行けなかった人とも 一緒に、折り紙でリースを作る。 折り紙の折り方、創意工夫	高柳なな枝	3名
28	令和4年1月22日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	15	タイプ① 今年はトラ年！ 十二支しりと	十二支の確認、みんなは何年？ 十二支しりと	高柳なな枝	3名
29	令和4年2月7日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	7	タイプ③ 講演会準備	2月26日北区での講習会にむけて、 相談、準備、練習	井上くみ子	1名
30	令和4年2月12日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	17	タイプ① バターをつけたらお いしいもの	実験「バターづくり」の準備 バターを作ったら何につけたい？ バターづくりに用意するもの	高柳なな枝	3名
31	令和4年2月26日(土) 10:00~12:00	2	ZOOM	18	タイプ① バターを作ろう	実験「バターづくり」 不思議に思ったことに予想を立てる さらに実験を進める	高柳なな枝	3名
32	令和3年10月16日 (土) 10:00~12:00	2	ZOOM	16	タイプ④ 発信	大宮図書館おはなし会 リハーサル、本番、交流会	高柳なな枝	2名
33	令和3年10月23日 (日) 10:00~12:00	2	大宮図書館	23	タイプ④ 発信	大宮図書館多言語交流会	芳賀洋子	2名
34	令和3年12月4日(土) 10:00~12:00	2	武蔵浦和 図書館	21	タイプ④ 発信	武蔵浦和図書館 多言語おはなし会(対面)	井上くみ子	1名
35	令和4年2月12日(土) 10:00~12:00	2	さいたま市立 針ヶ谷小学校	21	タイプ④ 発信	チャレンジスクール	芳賀洋子	4名

(1) 特徴的な活動風景 (2~3回分)

○取組事例①

【第15回 令和3年8月23日】発信 南浦和図書館での多言語おはなし会

コロナ禍のためオンラインにて開催した。南浦和図書館にとっても初めてのことであったので、打ち合わせや相談を重ねての開催となった。通信環境等の問題だけでなく、対面とは違った著作権の問題もあり、使える本や見せられるページなど、非常に制限が多かった。そこで、相談の段階から、外国出身者に参加してもらい、○×カード、物を使ったクイズ、著作権にかからない自分で作った登場人物、体を動かしたり手遊びなど、こちらでは思いもよらないアイデアが続々とでてきた。また、今回は手話を母語としろう文化を背景にもつ聾者にも参加してもらったことにより、伝わらないときの方法や、伝わった時の喜びもあり、より多様性のある会となった。参加者も親子で参加し、出かけられない夏休みの1日をとても楽しく、有意義な時間をすごすことができたとの声もあった。中止にすることは簡単だが、みんなで考え新しい挑戦であるオンラインおはなし会ができ、全員が満足できた。



○取組事例②

【第24回 令和3年11月27日】

1. NPO法人エコエコの紹介、挨拶
2. 葛のツル取り
3. とったツルでリースづくり、装飾
4. 全体写真とお礼を多言語で

この活動では、集合時間・待ち合わせ場所・持ち物を理解し、街に出ること、環境保全ボランティア活動をし、社会参加すること、自然に親しみ、豊かな体験をすること、オンラインではなく対面で会うことにより、他者理解をはかることを目的として行った。今年度の教室活動はオンラインでの開催で、オンライン会議システムの画面越しではしか会えなかったが、対面で活動できる良さを感じた活動であった。



(2) 目標の達成状況・成果

続くコロナ禍で、対面での活動ができず、ほとんどがオンラインとなった。しかし、学びを止めることはなく、方法を駆使し活動を続けた。学校でも友達と近づいたり、おしゃべりしたりができない中、参与観察や参加者からの発言から、この教室活動では日本語を楽しく使える活動をし、言葉を育てる活動ができたと言える。

また、活躍の場・発信事業にも力も入れた。さまざまな機関と連携しエンパワメントの機会を作ったり、地域社会とつながることにより、多文化共生の意識を日本人側へ広める機会となった。教室活動の中で、外国出身者が企画段階から参加することにより、自分でできることや役割にも気づき、積極的な日本語の獲得にも繋がった。

(3) 今後の改善点について

オンラインでの教室を継続していると、地域を超え近くに日本語教室がない人でも参加ができるのは利点ではあるが、対面の教室へもどした時の対応を考えておく必要がある。また、人数制限や感染防止対策についての縛りがある中で、活動を教室にもどすタイミングやその後の活動方法を慎重に考えて行く必要がある。また、発信事業に関しても会場の人数制限があったり、活躍の場がキャンセルになったり、回数も少なく、その機会が十分に持てなかった外国出身者もいたのが残念である。教室参加者のニーズを聞きながら活動方法を選んでいくこと、連携機関とやり取りしながら外国出身者の活躍の場を確保し、その後は連携機関が主体的にそのような場づくりを進めてくれるよう対話を十分に行っていきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

【活動の名称：外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための日本語教育人材の養成事業～日本語支援の充実と、多様性豊かな教育環境作り】

取組の目標	これからの日本を共に生きる外国ルーツの子供たちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、体制整備、特にその教育に関わる人材の育成は必須である。しかし、さいたま市では、日本語指導員、日本語ボランティア、教職員に対する研修はない。そこで、人材育成講座では、昨年度に引き続き、2020年作成の教材(改訂版)を活用し、母語や母文化、教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などについて、講演会・勉強会を実施し、特に、多様性の認識、教えるとはどういうことかなど、基本的な視点を共有することに努めた。すべてを通して、対話型を目指した。									
内 容	下記①では、多文化共生の環境作りや子供たちの持つ多様性を活かした日本語教育の大切さを学び、②～④では、実践講座として、2020年度作成の教材(改訂版)やワークショップも活用して、多文化の子供たちに関わる人材のスキルアップ、アイデアの習得を目指した。②～④の講師は、当団体の高柳、井上、芳賀が務めた。また、この事業に参加した者同士が情報交換できるような継続的なつながり作りや、外国出身者をゲストとして迎え、互いの立場を理解しあう機会を作った。 ①講演会(1回3時間×2回) ・福島賢二氏(埼玉大学社会教育学)…春原憲一郎氏が残されたメッセージを受けて「対話」について考えた。 ・橋本一郎氏…ろう教育や特別支援教育の視点から、日本語教育と言語教育を考えた。 ②勉強会(1回3時間×5回)…教材を活用した実践講座。参加者同士の対話と、当事者からの発信を取り入れた。 ③教師力パワーアップ講座(1回1.5時間×1回=1.5時間)…さいたま市教育研究所との連携で開催。 ④学校等訪問研修(1回3時間×2回+2時間=8時間)…座談会形式でできるため、意見交換も活発にできた。									
実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日				授業時間・コマ数		1回3時間 × 9回 = 27時間 1回2時間 × 1回 = 2時間 1回1.5時間 × 1回 = 1.5時間			
対象者	外国につながる子供に関わる全ての人 (本人、家族、教育関係者、地域の人、ボランティア関係者、行政、大学生、その他)				参加者		総数142人 受講者142人 受講者の内、指導者・支援者等である者12人			
カリキュラム案活用	昨年度・一昨年度の教材作成で、外国につながる子供たちに関わる全ての人に向けた教材『今日からいっしょに』を作成した。これは、カリキュラム案やガイドブックの理念にのっとり、カリキュラム案にはない、外国ルーツの子どもの教育を扱ったものである。当教室の活動の中で、子どもたちやその保護者から得た気づきやノウハウを、ガイドブックの理念に沿って教材化したものである。5回の勉強会では、この教材に書かれた理念を参加者と共有し、日々の活動に生かしていくスキルを高めることを目指した。特に、「対話」「対等」「多様性」「エンパワーメント」をキーワードに参加者同志の話し合いや、つながり作りを大切にし、コラム6にある、「社会を作る＝私たち日本人も変わろう」というメッセージの発信に心がけた。									
使用した教材・リソース	『多文化の子ども達に関わる人のための実践アイデア集～今日からいっしょに～』 『多文化の子ども達に関わる人のための実践アイデア集～今日からいっしょに～』改訂版									
	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
受講者の出身(ルーツ)・国内別(人)	5	2	0	2	1	0	0	0	1	126人
	スリランカ(1人) アルゼンチン(1人) ウクライナ(1人) ミャンマー(1人) バングラディシュ(1人)									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和3年6月19日(土) 9:00～12:00	3	ZOOM	33	「外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための多様性豊かな教育環境づくり」	第1回講演会をお願いしていた春原憲一郎氏が残された言葉の数々から「教える」ことの原点を考えた。		芳賀洋子		
2	令和3年6月25日(金) 13:00～15:00	2	さいたまユースサポートネット	16	訪問研修 地域の協議会(見沼区)	地域で子育てと教育 多文化共生とやさしい日本語		五十洲恵		
3	令和3年7月11日(日) 9:00～12:00	3	ZOOM	45	「外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための多様性豊かな教育環境づくり」	講演1 教えるプロは教えない「教え」の呪縛からの解放		福島賢二	発表者:3名	
4	令和3年8月21日(土) 9:00～12:00	3	ZOOM	29	「外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための多様性豊かな教育環境づくり」	講演1を振り返り、参加者から話題提供。 講演会により自分の考えや行動がどう変わったか。具体的に自分の現場で、どう生かしたいと思ったか語る。		高柳なな枝		
5	令和3年10月2日(土) 16:00～19:00	3	さいたま市文化センター 多目的ルーム	30	「外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための多様性豊かな教育環境づくり」	講演2 ろう教育の視点から、子供たちの力を伸ばし、生きる力をつける日本語教育を考える		橋本一郎	3名	
6	令和3年10月19日(火) 11:00～14:00	3	さいたま市立大谷小学校	17	訪問研修 小学校就学時健診	新入学の児童や保護者に対する やさしい日本語での対応や保護者のフォローについて		高柳なな枝		
7	令和3年10月22日(金) 18:40～20:30	2	さいたま市教育研究所	13	パワーアップ講座	教員を目指す若者と、外国ルーツの子供に関わる人に必要な態度について考える。		高柳なな枝	補助者:2名	
8	令和3年11月14日(日) 9:00～12:00	3	ZOOM	19	「外国ルーツの子供たちが力を伸ばすための多様性豊かな教育環境づくり」	講演2を振り返り、ワークと対話をとおして、 多様性についての理解を深める		井上くみ子	発表者:1名	

9	令和3年12月10日(金) 13:00～16:00	3	日本赤十字 看護大学	10	訪問研修 看護学校	やさしい日本語の達人になること 医療の中の多文化共生	井上くみ子	
10	令和3年12月18日 (土) 9:00～12:00	3	さいたま市文化 センター 多目的ルーム	33	「外国ルーツの子供 たちが力を伸ばすた めの多様性豊かな 教育環境づくり」	多様な出会いと対話から生まれる 学びと変容	芳賀洋子	発表者:6名
11	令和4年2月20日(日) 9:00～12:00	3	ZOOM	36	「外国ルーツの子供 たちが力を伸ばすた めの多様性豊かな 教育環境づくり」	12月18日の大学生企画の勉強会の振り返り と1年の振り返り、今後に向けて	高柳なな枝	発表者:5名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回講演会 令和3年10月2日】

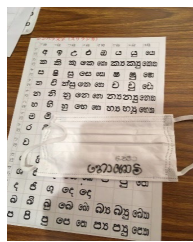
10月2日(土) 16:00～19:00 さいたま市文化センターにて橋本一郎氏(亜細亜大学)講演会「ろう教育の視点から子どもの力を伸ばし、生きる力をつけるための日本語教育を考える」を開催した。
大学で教壇に立っているだけではなく、通訳士、コーディネーター、手話パフォーマー、手話アーティストなど、さまざまに活躍し、とても笑顔が素敵な橋本氏。その講演会は「社会を変える」という熱い思いが伝わる素晴らしいものだった。「日ごろ日本語ばかりに目を奪われ、もっと大切なことを忘れてしまっていないか? 気づかないといけないことがあるのでは?」ろう教育という視点であったからこそ、気づくことが多くあった。子どもたちを日本語教育という面からだけでなく、いろいろな視点から見ることの大切さを改めて感じた。聞こえる、聞こえない、日本語関係者、ろう教育といった垣根を超えて、みんなで考えることのできた講演会となった。



○取組事例②

【第5回勉強会 令和3年12月18日】

12月18日(土)さいたま市文化センターにて「多様な出会いと対話から生まれる学びと変容～おんなじって嬉しい! ちがうって楽しい!～」をテーマにした勉強会を開催。今回は、「にほんご畑」に継続的に参加している大学生と外国ルーツの若い世代が企画・発信。内容は、①多言語活動 ②外国ルーツの若者の体験談や将来の夢を中心にした座談会 ③外国ルーツの人との対話を通して気づいたことなど発信する大学生の座談会 ④参加者同士の対話の時間。
多言語活動では、タガログ語とシンハラ語、中国語を使った多言語ゲームやシンハラ文字でマスクに名前を書くという体験も行った。シンハラ語の文字表を見ても、「書き順は?」「これであっての?」と参加者はとまどうことばかりだったようだが、日本に来た子ども達の大変さを追体験することができた。大学生と若者の発信はとても新鮮で、自分たち(日本人)も変わっていかうというメッセージが伝わった。



(2) 目標の達成状況・成果

人材育成事業の参加者からの感想やコメントなどから、多文化の子どもたちの環境づくりを考えるという内容や多様な人同士の対話を大事にするという目的は充分達成された。大学生と多文化の若者がチームを作って企画発信した勉強会は、多様性豊かな街づくりに向けた象徴的な勉強会になった。また、対話型、参加型の講座を続けることで、参加者同士のつながりもできた。
以下は、参加者からのアンケートの一部抜粋である。
思っているだけでなく、自分も行動していきたい／外国の人が持っている力強さを引き出していきたい／楽しく学ぶことの大切さ／グループで、たくさん話せた／みんなの前で話して、自分の気持ちが整理できた(当事者)／困っている子どもを助けようと思っていたが、むしろ学ぶことが多く、「共学の世界」を実感した／体験談を聞いて、両方の国を愛せる子供になるためには、日本語や文化を教えるのは違うと思った。

(3) 今後の改善点について

すべての講演会・勉強会は、外国につながる子供たちを取り巻く環境の改善を目指している。その中で、教員の参加がないことが最大の課題である。教員の参加が難しいことから、数年前から教育委員会や教育研究所との連携でパワーアップ講座、訪問研修などを実施し、教員の方たちへの発信を続けてきたが、今年度は、コロナ下でそれも充分実施できなかった。今後は、教育委員会、国際交流協会、大学との連携で、教員向けの講座が実施できるように努める。
また、コロナ禍で活動に制限があり、大半がオンライン会議システムの開催になった。アクセスが難しい人の参加があった点は大きな成果だったが、参加者同士のつながりを考えると、対面での自由な交流が欲しい。そのような中、対面でできた2回の講座は貴重であった。今後は、両者のいい面を取り入れて、オンライン会議システムと対面をうまく組み合わせる行くことがベストだと思われる。

日本語教育のための学習教材の作成 【教材の名称：『多文化の子ども達に関わる人のための実践アイデア集～今日からいっしょに～』改訂版2(増補)】			
取組の目標	2019年度に作成し、2020年度の改訂版を作成した教材に、学校や地域で実際に使える活動アイデアをさらに加え、充実する。実際に活用しながら、子供たちの日本語教育に関わる人たちに届けていく。		
内 容	すでに、60時間分の教材は作成しているので(2019年度に作成し、2020年度の改訂版を作成)、今回は、人材育成での活用とその過程で出てきた見直しを含め、増補改訂を行った。 具体的内容は 1)「多様性をいかした教室活動のアイデア」 「おんなじって嬉しい！ちがうって楽しい！」を広める活動アイデアをさらに加えた。 2)「多文化の子ども達が使えるワークのアイデア」 現場の先生方は、日本語ができない子どもにどんな課題を出せばいいか悩んでいる。日本の子どもたち用のドリルを渡すことが多いが、効果がないだけでなく、学習意欲などの面からマイナスの影響を与える場合も多い。そこで、そういった子供たちが使えるワークを参考として作成した。 3)「オンラインのできる活動のアイデア」 コロナ禍でオンラインによる教室活動を実施してきたが、その結果得た活動例を具体的に紹介した。		
実施期間	令和3年5月27日～令和4年3月18日	作成教材の 想定授業時間	1回3時間×20回＝60時間
対象者	多文化の子どもに関わるすべての人 (教員に向けた場面が多いが、行政、地域の人を含めたすべての人が理解してほしい内容である。)	教材の頁数	40ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「Ⅶ. 人と関わる」「Ⅷ. 社会の一員になる」の項目をより広い視点でとらえ、作成の際に活用してきた。特にガイドブックに書かれているコラムの内容は、全編通して精読し、基本の理念としている。なお、⑥日本語教育人材の養成・研修の在り方についても参考にした。		
事業終了後の教材活用	さいたま市教育委員会や県教育局など主に運営委員が所属する機関に、外国出身児童が在籍する学校やクラス担任に紹介する等、この教材を周知・活用してもらうように伝えた。また我々が外部から講座の講師依頼を受ける機会も増えているので、ワークショップを多く取り入れて、教材の内容を積極的に発信していく。教育委員会等から積極的に特定の教材を紹介することは難しい面があるので、文化庁からの通知として教材の積極活用を指示してほしいと言われている。検討をお願いしたい。		
成果物のリンク先	地球っ子グループHP https://chikyukko.github.io/ 地球っ子クラブ2000 HP https://chikyukclub2000.blogspot.com/		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本にいるすべての外国出身者は、幸せになるために日本に来たはずである。そして、幸せになるためには①人との豊かな関わり、②体験と活動、③自尊感情、④社会参加の4つが必要であり、日本語教育はそのためにある。さらに、それらの成果を生かして、外国出身者と協働して社会に積極的に発信し、日本社会の意識改革・多文化共生の街づくりなど、外国出身の人たちが暮らしやすい環境づくりも、日本語教育の忘れてはならない役割である。

私たちのこの考えは、外国出身者とともに学びあう中で気づいたことであるが、「生活者としての外国人のための日本語教育」ガイドブックのコラムに書かれている理念とも一致するものであると考える。ただ、生活者としての外国人にとって、非常に重要である子育てと教育がカリキュラム案には入っていない。保護者が子育ての主役として主体的に関わっていくために、日本社会や学校の情報を十分に受け取りながら社会参加していくサポートが必要である。私たちは、さいたま市の日本語指導員として子供たちの声なき声を聞く立場にあったことから、目の前の子どもたちの幸せのためには、子供と保護者を一体とした1)教室活動を継続してきた。その中で気づきをコラムの理念と照らし合わせながら振り返り、子育て・教育の分野の日本語教育を進めてきた。上記の①②③④の良い循環を生み出す日本語教育という考え方はその成果である。

今年度は、Aプログラム「多文化ハッピープログラム」の集大成として、1)教室活動と、2)日本語教育の要である関わる人々を対象とした人材育成事業に力を入れたい。特に、2)人材育成事業では、昨年度作成の教材(改訂版)を活用し、態度を含めたスキルの向上を実践を通して学びあい、「私たちも変わろう!」という大きなメッセージも届け、さらに、関わる人たちのつながり作りも進めていきたい。3)教材作成においては、人材育成事業の結果や現場からの声をさらに反映させる。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

●取組1の教室活動について、参与観察や参加者の発言から、オンラインでの学びが軌道に乗り、安定的に充実した教室活動を継続することができた。またコロナの感染状況を見ながら、対面での活動を入れる等、臨機応変に活動スタイルを変え、対面・オンラインの良さをそれぞれ活かすことができた。またその教室活動で学んだ日本語を使い、図書館の多言語おはなし会等での発信事業でも、出演者である多言語多文化の人が持っている魅力や能力を日本人住民にも知らせることができた。オンラインでのおはなし会は著作権など難しいことも多かったが、図書館と連携しながら開催することができた。おはなし会に参加した人からの感想や反応から、楽しい内容で、多文化に触れられるいい機会となったようである。

●取組2の人材育成も、ほぼオンラインでの開催であったが、勉強会後のメール等のやりとりから、多文化の子どもに関わる際の配慮や知識・技能・態度が学べたようだ。オンラインで開催できたことで、さいたま市やその近郊の人だけではなく、国内の様々な地域や国外からの参加もあり、昨年度に引き続き、広い輪の繋がりが持てることができた。さいたま市以外の地域であっても、この研修会で知り合った者同士の意見交換や情報共有が進み、今後、各地域でもこのような勉強会を開催したいという声があがっている。さいたま市教育研究所のパワーアップ講座では、今後、教員志望の大学生が参加するなど、未来につながる人材育成が行えたと感じている。今後の開催形式は検討が必要だが、多文化の子どもに関わる人の勉強会を欲している人が多いことはわかったので、今後もこのような学びの場は継続していきたい。

●取組3の教材作成では、成果物として『多文化の子どもたちに関わる人のための実践アイデア集「今日からいっしょに」改訂版2(増補)』を完成させることができた。昨年度作成した教材には載せられなかった、「多様性をいかした教室活動のアイデア」、「多文化の子ども達が使えワークのアイデア」、「オンラインでできる活動のアイデア」を集め、編集した。今後はこの教材が各現場で多文化の子どもたちのために効果的に活用されるように、さいたま市教育委員会や県教育局など、主に運営委員が所属する機関に、外国出身児童が在籍する学校やクラス担任に紹介する等、この教材を周知・活用してもらうように伝えた。また我々が外部から講座の講師依頼を受ける機会も増えているので、ワークショップを多く取り入れて、教材の内容を積極的に発信していくことにつながると考えている。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

多文化の子どもや保護者のライフコースに配慮した教員・支援者向けの教材はないため、昨年度同様、「カリキュラム案について」はその内容を参考に、そしてその理念に立ち、教材を作成した。「ガイドブック」を活用することで基本姿勢を理解することができ、また「教材例集」カリキュラム案・教材例集を活用することで、研修会での児童生徒の学習内容作成の演習にあたり、授業の流れを理解することができた。

言い続けていることではあるが、カリキュラム案に「子育て・教育」の項目を加えることが必要不可欠である。その際、日本人側が変わらなければならない点があるということを見直すべきであると考えている。カリキュラム案では生活者のエンパワメントが狙いとなっているが、その内容が日本人の視点から外国人にとって必要であろうということを抜くだけでは残念である。例えば「子どもの健診で医者言うことがわかる」という外国出身者だけのcan doではなく、日本人側のcan do、例えば「外国出身者に子どもの健診内容をわかりやすく説明することができる」というような項目を別途作成したり、「わかりやすく説明してもらえれば、子どもの健診で医者の言うことがわかる」というような記述に変えたりしたほうが真意が伝わりやすいのではないかと考える。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

●運営委員をはじめとした連携機関の担当者と共に連携をとり、事業を行っていくことができた。教育委員会には昨年に引き続き教材作成委員にもなってもらい、現場の教職員の声を聞かせてもらうことができ、教材の内容に大きな示唆を与えてくれた。今後の活用方法についても県都を続けていきたい。

また教育委員会や教育研究所には人材育成の「教師力パワーアップ講座」の周知活動に協力してもらえた。また研修会では、埼玉県教育局に後援してもらい、その告知には、県国際課のメール配信や埼玉県国際交流協会のメールマガジンなどを活用させてもらい、周知につながった。

●図書館やチャレンジスクール(小学校)との連携による事業は日本人住民との交流の場でもあり、日本人・外国人にとっていい学びとなった。コロナの影響でオンラインでのおはなし会を開催したが、絵本の著作権について、図書館が出版社とやり取りを進めてくれた。

●文化庁事業のつながりから、埼玉県多文化共生推進委員、埼玉県社会教育委員・生涯学習推進委員、「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業推進会議委員など県内のさまざまな会議に参加する機会をいただき、外国出身親子の声を代弁できる機会ももらった。

●埼玉県国際交流協会からの呼びかけで、「埼玉県日本語教室相談・立ち上げアドバイザー」に応募し、県内の地域日本語教室の立ち上げに携わることになり、地域の日本語教室として活動してきた経験を活かすことができた。

●大学生やそのゼミの大学教員とつながることで活動に幅が出た。具体的には、私たちが大学で話をする機会をもらったり、こちらの勉強会に参加してもらったりした。その結果、専門分野は違うが密接にかかわっている研究分野の話が互いに聞け、講演会や勉強会の内容が多層的に展開された。

(5) 事業実施に当たった周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

●取組1の教室活動や、取組2人材育成については当グループのHPやfacebookなどのSNS、またロコミを中心に周知・広報に努めた。また、県メール配信や、国際交流協会のメールマガジンなども活用させてもらった。

教室活動や人材育成ではオンラインで行うことで、参加者が安心して参加でき、対面では広がり得ない範囲で参加があった。一方、対面での活動を行ったことで、閉じた教室活動にならず、他のNPO団体のメンバーやイベントに参加した日本人住民にも我々の団体や活動内容を周知することにつながった。

●地域への発信である図書館での多言語おはなし会では、図書館側がチラシを作成し、近隣の小学校に配布するなど広報活動にあたってくれた。

●作成した教材については、我々のHPに掲載するだけではなく、メーリングリストやSNSでも広く周知し、教材自体を見てもらう機会を増やし、その内容について講座を開くなど展開していきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

●今後どの段階で教室活動を対面に戻していくか、またはオンラインと対面の併用にしていくのかなど、コロナ禍の状況や参加者のニーズを踏まえ判断していく必要がある。

●外国につながる子どもに対し、直接かかわる教職員がより多く参加できる研修の機会を作る必要がある。日本語教室の活動拠点の区の校長会などに話を持って行ったり、教育委員会や教育研究所などと相談し、研修会や訪問研修などの機会を充実させたい。また、その際には今年度までに作成した教材を活用しながら、ポイントとなる点を伝えていけるようにしたい。

●外国出身親子の教育環境の改善・充実のためには、専門性のある適切な人材の育成、体制整備が不可欠である。特に要である地域日本語教育のコーディネーターの適切な配置と活用が必要である。これらに対し、教育委員会と継続的に話をすすめていきたい。

(7) その他参考資料

・発信チラシ 親子de多言語: 大宮図書館
・人材育成チラシ1__6月勉強会
・人材育成チラシ2__7月講演会
・人材育成チラシ3__10月講演会
・人材育成チラシ4__12月勉強会
・人材育成チラシ5__2月勉強会